



学生番号:14106270	クラス:F	氏名:篠原 靖明	提出日:2010年1月14日
論題	地上デジタルテレビ放送への移行によりテレビの購買が受ける影響		

【 キーワード 】 情報処理 地上デジタルテレビ放送 フレーミング効果 心理的財布 プロスペクト理論  
ポジティブ感情 感情の既存知識構造依存仮説

【 論文要旨 】

2011年、現在の地上アナログテレビ放送は終了し、地上デジタルテレビ放送へと移行する。地上デジタルテレビ放送を視聴するには、地上デジタルテレビ放送に対応したテレビが必要であり、今後、テレビの大量の需要が見込まれる。

地上デジタルテレビ放送への移行によるテレビの購買は通常のテレビの購買とは決定的に違う点が2つある。本研究は、通常のテレビの購買と地上デジタルテレビ放送への移行による購買との違いを、購買意思決定過程における問題認識の違いであるとし、「地上デジタルテレビ放送への移行によってもたらされる問題認識の違いが、消費者の地上デジタルテレビ放送対応テレビの購買にどのような影響を与えるのだろうか」という問題意識を持った。

問題認識の違いに関する先行研究である、小嶋(1959)による心理的財布、Tversky&Kahneman(1981)によるフレーミング効果から、「地上デジタルテレビ放送への移行による影響により、テレビの購買という意思決定問題の消費者の決定フレームはどのような変化をし、購買意思決定がどのような影響を受けるのかを明らかにしていく」を研究目的とし、仮説の導出、検証を行っていく。

本研究は通常のテレビの購買はネガティブな感情のもとで行われ、地上デジタルテレビ放送への移行によるテレビの購買は、認知的不協和の理論の働きにより、ポジティブな感情のもと購買が行われると考える。

Bless(2000)の既存知識構造依存仮説をもとに本研究は、地上デジタルテレビ放送への移行によるテレビの購買において、既存知識を利用しやすい情報によって信念や態度を変容する、という仮説を導出し、検証を行う。

本研究は、既存知識を利用しやすい情報を与える群と利用しない情報を与える群の2つに実験協力者を無作為に分け、質問紙調査を行い、その結果を対応なしのt検定によって分析し、仮説の検証を行い、検証の結果、本研究が導出した仮説は棄却された。

本研究は検証方法として、実験刺激の問題や測定尺度の問題などが挙げられ、改善の余地があるが、本研究が取り組んだ問題意識の違いが購買意思決定に影響を与えるプロセスを明らかにしようとする試みは、先行研究にはないものであり、有意なものであった。

また、本研究の導出した仮説が支持されれば、地上デジタルテレビ放送への移行におけるテレビの広告のあり方は異なるものとなっていく。